

No. 49

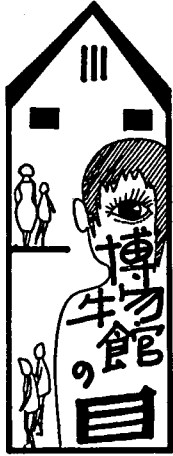
1980.

2. 5

# 岐阜の博物館

〒483 羽島郡川島町  
 エーザイ工園  
 編集 内藤記念くすり博物館 内  
 兼 岐阜県博物館協会  
 発行 TEL (058689) 3111 内線 540  
 振替 名古屋 70106

## 岐阜大学教育学部に博物館学講座の開講を！



人類がみつけ出した知識の膨大な蓄積は、教育の中味を、知識の伝達ではなく、学ぶことの方法を習得させることへと変化させた。主体的な学習とは、自らが「物」を通して、自らの書物をつくり出すことだとするとき、「物」をもつ博物館の存在は、生涯学習の場としてこれからますます重要視される教育機関のひとつである。たとえそれが個人のコレクション公開型のミニ博物館であろうと、公立の大規模博物館であろう……と。また、こうした社会の知的生活化の時代をふまえて、地域文化に支えられた大小の博物館施設も、急激に増加している。

ところが、社会の条件整備の着々とした充実と比べて、それを利用する側——つまり人間の側の博物館活用教育は、皆無に等しく淋しい限りである。人間の教育にたずさわる教師の資格に、もうそろそろ「博物館学」を必須教科とすべき情勢にあるのではないだろうか。博物館及びその類似施設を、上手に利用できる人間づくりこそは、口ぐせのように云々される「自主的な学習態度づくり」「学ぶことよるこびを求

めて」——云々の、遠まわりのようで何よりの近道ではないだろうか。

岐阜県は、総合博物館が誕生して4年になるうとしているし、市町村段階のものも着実に伸び、これに私的なものも加えるとその数は、全国でもトップレベルにある。教員養成を目的とした岐阜大学教育学部には、教育にたずさわる教師の素養として、「博物館概論」及び「博物館教育論」ぐらいの講座が開かれてしかるべきではないだろうか。

博物館をみんなのものとし、みんなの日常生活に密着したものにするためには、博物館側の積極的な事業推進の努力と相まって、やはり学校教育の中での博物館活用教育の根強い基盤づくりが欠かせない。博物館の専門職員である学芸員の養成などといった大上段にふりかぶったものではなく、教員の一般教養としてである。

全国的にもこうした気運が高まりつつある折から、郷土にある岐阜大学当局の英断を強く望みたい。

(K.H)

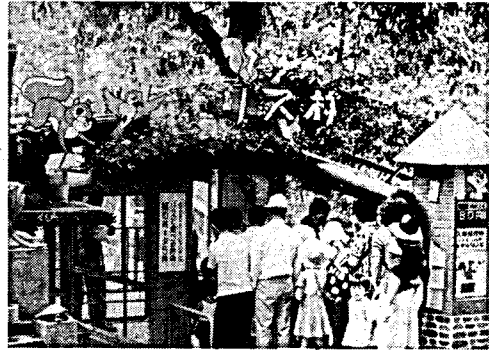
## ぎふ金華山リス村

▽ 500 岐阜市千疊敷下257 (岐阜公園内)  
岐阜観光索道KK気付  
TEL 0582-62-6784

上野動物園のパンダが死亡したときには、日本中が大騒ぎでした。野生動物が人々を魅了する力は絶大なものがあります。生命ある動物こそは、どんな精巧な機械じかけの玩具よりも、子どもならずと大人まで引き付ける最高の玩具といっていでしょう。動物園をもたない本県にとって、このぎふ金華山リス村は、山麓の岐阜公園内にある鳥類を主とした小動物園とともに、生きた動物と接触できる施設としては貴重な存在です。

人口40万人を越える大都市岐阜市内に、うっそうとしたツブラジイを主にした照葉樹林を残している金華山は、国盗り物語で天下に知られた歴史の山であるだけでなく、その自然林こそが国の天然記念物にそっくり指定されてもしるべき自然の文化財です。山自体がそのまま自然の博物館といってよく、樹林内には暖地系のシダ植物も多い。

この自然に恵まれた金華山の山頂に設けられたリス村は、面積約330㎡、できるだけ自然に近い状態でリスと接触できるようにと、屋根のないオープンケージで飼育されており、その数約200匹、人園者の手から直接餌をとって食べ



る可愛らしさです。

リス村はリスの天国

リス村はおとぎの世界

子どもはリスと話す

話は魔法の言葉

リスだけにわかる言葉

子どもだけにわかる言葉

伊藤健吉

リスと遊ぶことは、子どもにとって面白いだけでなく、大人や老人にとっても、時を忘れるほどの楽しみです。日本のサル学は、世界のトップレベルにあり、ホ乳動物の中での霊長類の社会のしぐみを次々と明らかにしてきました。サル類を餌付けしての野外観察の結果ですが、ここリス村も、そうしたヒントの中から、しんぼう強く現リス村々長野倉新蔵氏が餌づけされたものということです。サル類が餌づけによる観光事業と学問追求に役立ったと同じように、リスの行動学についても、科学的な調査研究が進められ、このリス村を中核として、金華山一帯におけるリスの科学的な研究センターとなることが望まれます。このタイワンリスがどのようにして金華山に住みついたのか、タイワンリスの社会のしぐみは？ 究明すべき課題は山積みです。観光施設に甘んじることなく、その背景となる研究部門の充実があったらそれこそ鬼に金棒、名実ともにユニークなリスだけの動物園となるはずです。

開村時間 10時～17時(12月～2月→16時迄)

入村料 大人・小人とも 80円

※リス村入場料つきロープウェー往復券

大人 700円 小人 400円

## クマ牧場

▽ 506-14 吉城郡上宝村新平湯温泉

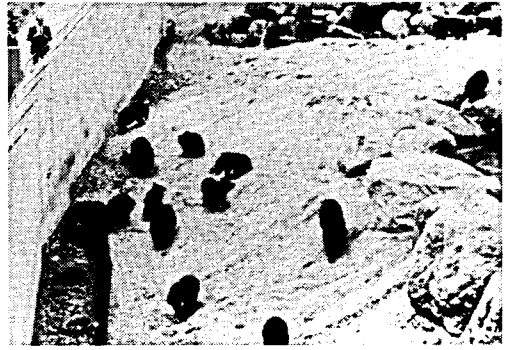
TEL 奥飛騨温泉局(05789) 2178

クマは日本列島内でみられる唯一の大型猛獣です。野生動物については、人間の側が勝手に多くの神話をつくり出し、思いの外その真実の生態は知られていません。誇張された作り話によって過大に猛獣悪者扱いされ、多くの面で誤解されています。ツキノワグマといった、最もよく知られているはずのこの大型哺乳動物ですら、その科学的な生態の真実は、まだまだ未知なことばかりです。

こうした現状の中で、北アルプス焼岳の麓、奥飛騨温泉郷・新平湯温泉にあるクマ牧場は、生きたツキノワグマを主体に、これに近縁のヒマラヤのクマなどが見られるクマ類の専門動物園として、訪れる人々に好評を博しています。

一般に動物園たる基本条件として、娯楽・教育・研究・保護が指摘されますが、飛騨という山岳地に絶好のフィールドをバックにもち、娯楽の面では十分にその使命を発揮しているものの、ただ残念なのは、その基盤を支える研究面の不足です。

岐阜県は、ツキノワグマの生息数が全国でも有数であるといわれても、その科学的な調査結果は皆無に等しく、生息域・分布状態、ましてや自然の中での生活の内容・習性、等々、その生態は全く調べられていません。たとえ一人で



もいから専任の研究員をかかえ、クマ牧場での教育内容の背景となるクマ学の追求があつてしかるべきではないでしょうか。地の利を得たクマ牧場ならではの学術的な研究成果が挙げられる中で、より多くの人々に、日本在住のツキノワグマを生きた資料で科学させたいもの、その裏付けとなる研究があつてこそ、真に生きて働きかけるクマ専門の動物園として、それこそ内外に強い反響を呼び、しかも長続きするほんものの観光的博物館としてのユニークな存在となることでしょう。期待するところ大です。鈴鹿のニホンカモシカセンターは、単にカモシカを飼育して見せるだけであつたなら、今日世に認められた存在にはなりえなかつたはずです。長年にわたつてのカモシカの生態研究及びその研究成果の展示へのとり入れの努力があつたのです。日本モンキーセンターもしかりです。クマについてのことなら、飛騨のクマ牧場に行けば何でもわかる、みられる、……そこまで質的な高い水準になることが、これからの知的レジャー時代に望まれる動物園の姿といえましょう。

自分たちの国に住んでいるクマの姿をたのしみ、より正しく理解できるクマ牧場への発展は、着実に減りつつある大型哺乳動物、ニホンツキノワグマの保護センターへの発展にもつながります。野生動物理解は、まさにヒトとは何であるかの理解そのものでもあることを知るなら、このクマ牧場の存在が、いかに大きな意味をもっているかがわかるというものです。

開園 8時～17時。料金 大人 500円 小人 300円 30人以上 1割引。

# 民俗資料の整理と 調査カードづくり(三)

明方村立歴史民俗資料館館長 金子貞二

## A 計測・作図用具

鉛筆・消しゴム(下描き用鉛筆はHBが適当)  
巻尺・曲尺・分度器・ノギス・コンパス・三角定規・平定規・雲形定規・縮尺定規・電気計算機・カッター(巻尺はストップ付鋼巻尺が便利。縮尺定規にあてはまらない分が多いので電気計算機があるとよい。曲尺はワラウチツチのような不整形の物の場合、机上に立てて垂直線を決めてかかるとまとめやすい。カッターは修正用。) ロットリングペン

0.1mm 寸法表示線・寸法・注記用

0.2mm 一般作図用

0.3mm 外郭線・分割線用

## B 作図の要領

- 1 原則として第三角法によるが、正面図・平面図・下面図・右側面図・左側面図のすべてを作図することは、物の実態把握のために、必ずしも必要ではないし、第一作業能率の上から必要最少限にとどめざるを得ない。  
例示すれば、イネコキは正面・平面・右側面を、ケンドは正面・側面を、ドウスは正面・平面に下白の平面を、トノウスは上白の正面・平面・下面と下白の正面・平面を、オケは正面と平面を、ゴザはその表・裏を、ハナトリザオは平面のみを、といったように、その物に則して、必要不可欠の面を作図する。
- 2 内部構造が重要となるドウス、あるいはオケのように厚さを示す必要がある場合、図のように真中の一部を割って、その断面を見せる。
- 3 アジロブコ・ゴザなど、編み方が重要となる場合は、その一部分を拡大して見せる。
- 4 棒・紐など、同じ形が長く続く場合、ハナトリザオのように、その中途を省略し、あるいは図の一部を空白にしても、他の図から実態の把握できるような場合は、アジロブコ・ドンビキグツのように簡略化する。

5 物の太さは、その断面を図示するか、ハナトリザオのような方法で表示する。

6 大形の物は、用紙を継ぎ足して図示し、あまり図が小さくならないようにする。

7 寸法表示線以外は、原則としてフリーハンドで描く。

8 材質などの表示は望ましいことではあるが、構造についての記述もあるので、必要最少限にとどめる。

## C 計測・作図の実際

### 1 略図

第三角法によって、方眼紙に見取図を描く。欠損部分や補修状態、木目などまで注意して描く。また、ワラウチツチのような形の整っていない物は、物の前に曲尺を立て、垂直基準線を決めて、そこから描いていく。

### 2 計測

巻尺・ノギスなどを使って、できる限り明細に計って、見取図に書き入れる。計測が十分であれば、作図もしやすく、正しくもできる。

### 3 縮尺の決定

限られた範囲に、できるだけ大きくおさめる。ここで同時に、その物のどの面を描くか、それをどう配置するかも決まる。縮尺が決まったら所定欄に $\frac{1}{x}$ と記入する。

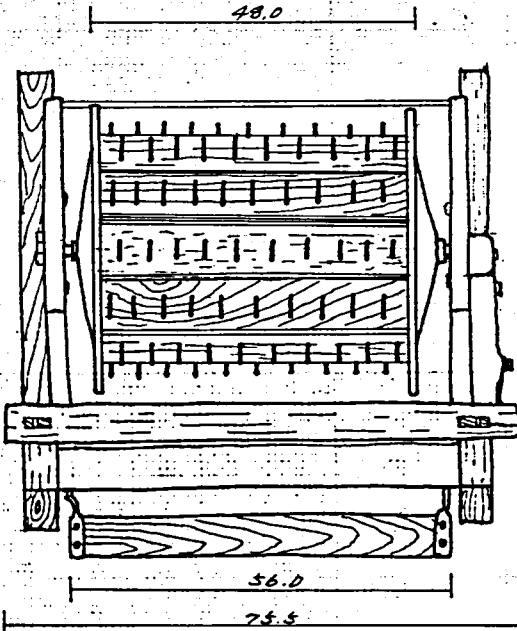
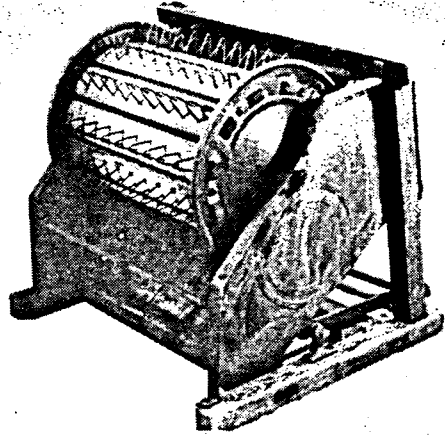
### 4 作図

実物と見取図を見ながら、縮尺で作図する。実物は必ず目の前に置くこと。鉛筆で下書きすること。方眼を十分活用すること。

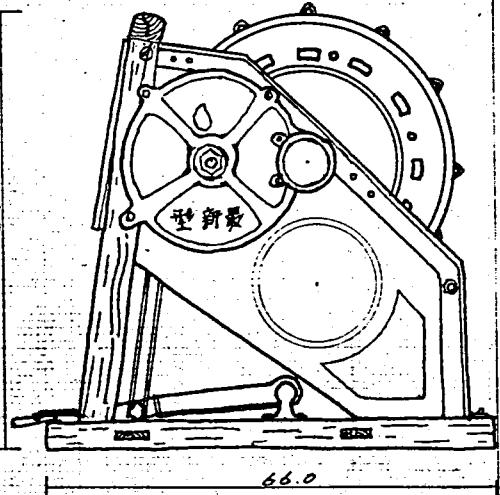
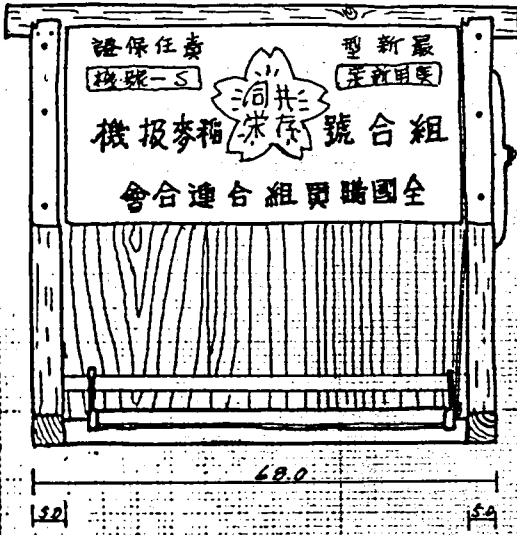
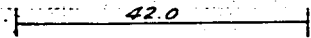
### 5 仕上げ

鉛筆で作図が終わったら、細部に亘って点検し、外郭線や分割線をロットリングペン0.3mmで、外の部分を0.2mmで仕上げ、0.1mmで寸法表示線を引き、寸法を入れ、注記もする。寸法は、見取図に記入したものをよく整理して、徒らに繁雑にならぬようにする。

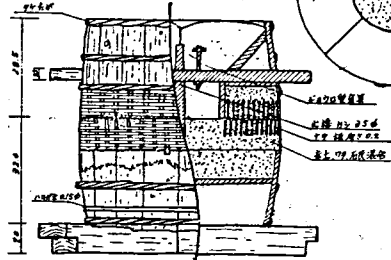
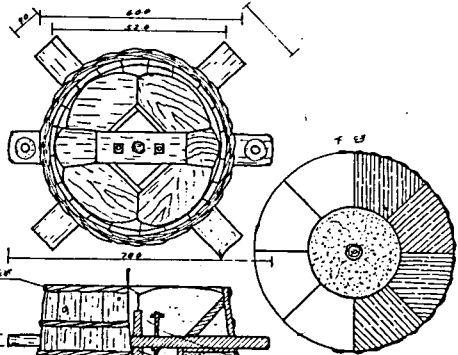
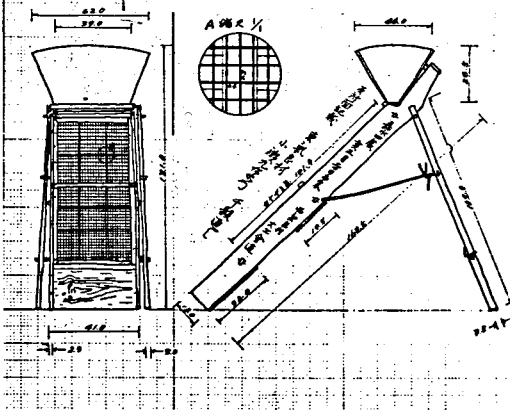
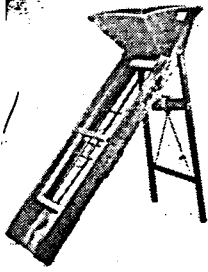
# イネコキ



40



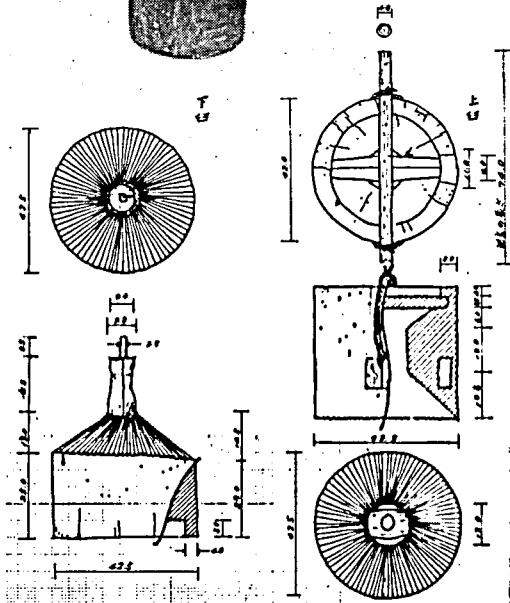
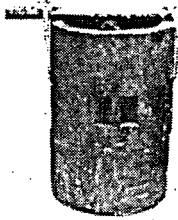
ケンド



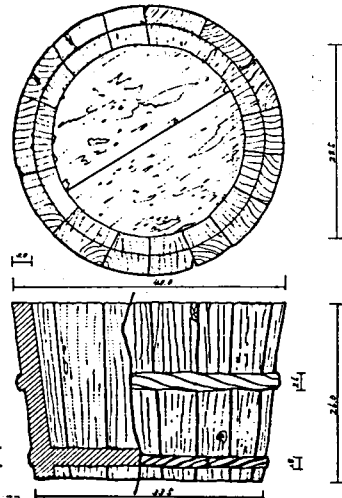
ドウス



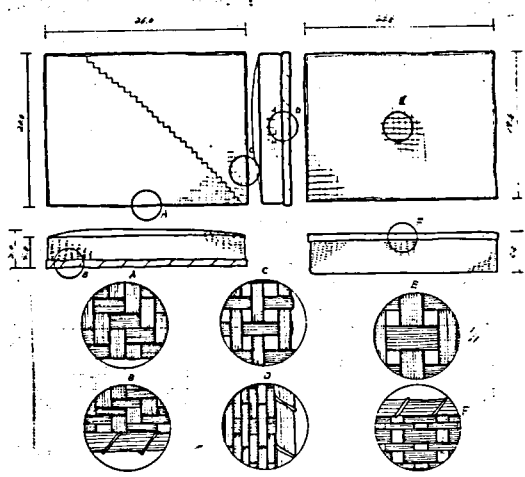
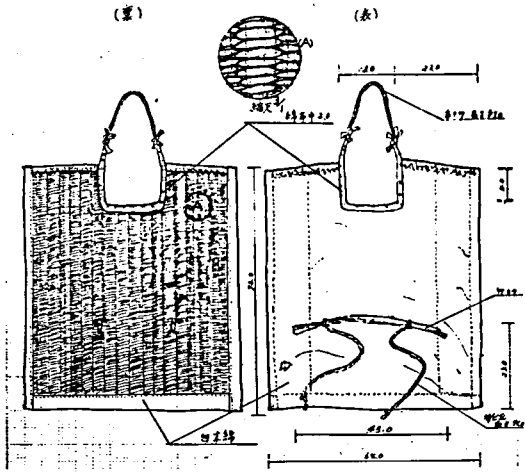
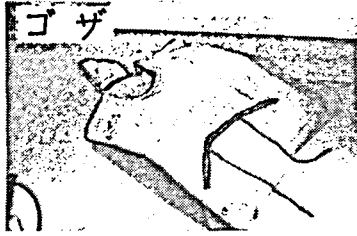
トネウス



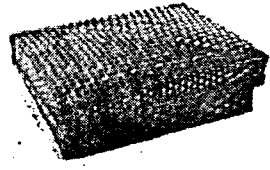
オケ



単位：cm 概尺

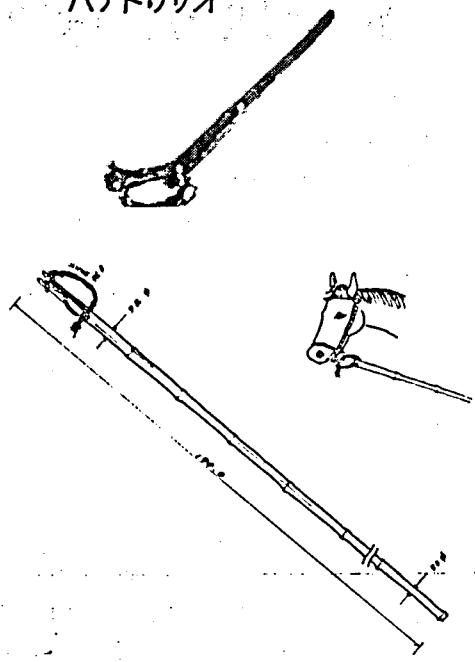


アジロアソコ

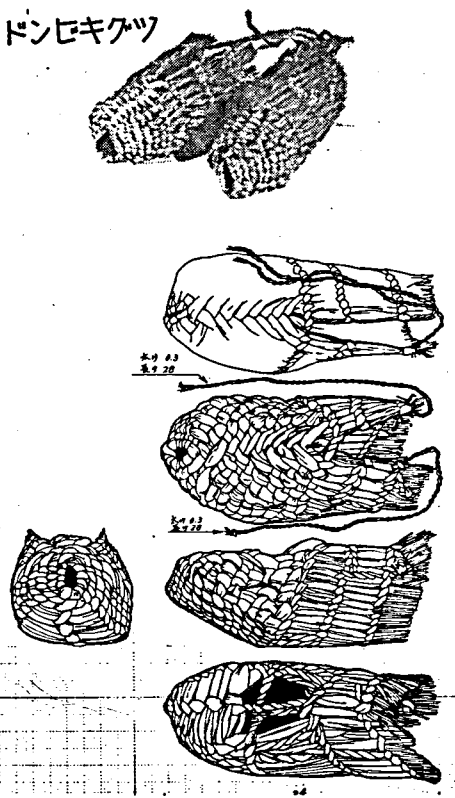


単位：cm 1/2

ハナトリザオ



ドンロキクツ



## 飛驒地方，下呂周辺の爬虫類(3)

元 下呂町爬虫類の森勤務 武 藤 暁 生

まず、春の4・5月、晩秋11月には、ほとんどの種がこの集水槽へ入っていなかった。京都丹波橋において、ヤマカガシ、シマヘビ共、4月に大きいピークが見られ、11月にも若干捕獲や目撃がされている(Fukada 1958)。この4月のピークは冬眠あけの出現によるものと考えられるが、そういった出現はこの用水路周辺になかったのかも知れない。ヤマカガシ4月25日、シマヘビ4月15日、ジムグリ4月28日の初認はあったが、下呂の4月はまだ寒い日が多く、ごく稀にしかヘビを見かけない。11月に入っていなかったのも、その時期の低温によるものであろう。集水槽外でもほとんど見かけていない。しかし、ヤマカガシ11月2日、ヒバカリ11月7日、シマヘビ11月18日、ジムグリ11月16日、アオダイショウ12月2日などの終認はあった。いづれにしても、下呂においてヘビ類がコンスタントに活動するのは、6～10月の間のようなのである。

ヤマカガシ、シマヘビには8月にはっきりした個体数の落ち込みがある。その点は京都丹波橋(Fukada 1958)の結果とも一致する。ただヒバカリの夏の落ち込みは比較的小さい。本種が暑い時期でもよく見かけることは、ゴリス(1966)、千石・ほか(1975)が述べている。この集水槽で7月20日採集した個体は、7月29日と8月1日に分けて計7個の卵を産み落した。

7月と9月にはどのヘビもよく入っていた。7月頃のピークは、産卵に関連して活発になった行動の結果とも考えられる。ヤマカガシは集水槽外で捕えてきた2個体が、7月7日と9日にそれぞれ産卵した。シマヘビでは、十分に発達した卵をもった個体が、6月14日この集水槽に入っていた。また7月12日と28日に産卵2例を確認、8月9日と19日には、2例、野外で

本種の卵塊をそれぞれ採取した。ヒバカリの産卵1例は前記した。

他方、この7月のピークは9月のピークと対比すれば、単に産卵行動によるものだけではないようである。ヤマカガシの9月のピークは、その上昇、下降勾配が特に急激である。2年間を通し、この9月だけに全体の42.6%が入っていたことになる。こうした勾配は、Fukada(1958)、千石・ほか(1975)の表に見られない。Oliver(1947)は気温の年較差の大きい合衆国内2地域で、これより鋭いピークが見られている例を掲げた。そこでもやはり、年間のヘビの出現の40%以上が1ヶ月間だけに集中しているという。下呂は飛驒地方南部に位置し、表日本型気候の要素が強いとはいえ、気温の変化は平野部に比し大きい方である。気温の月較差を年変化でみると、1、9、12月を除いて、下呂は高山市より小さいが、岐阜市よりは大きい。その3ヶ月だけは岐阜市にほぼ等しい。7月の気温較差は、高山市と岐阜市の中間にあるが、下呂における年変化だけから判断すれば、1、12月を除いて最も較差の小さい月であり、その次に9月が続く(以上の気象関係記述は高山測候所内気象普及会1976、岐阜県高等学校

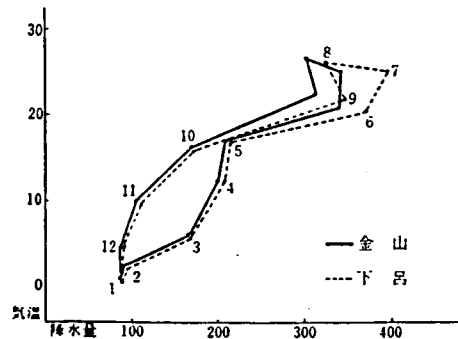


図5. 下呂町の日平均気温と降水量の年変化 (笠原・川崎 1975)



生物教育研究会 1974 の諸データに基づく)。つまり、下呂では年間を通し、気温の月較差は平野部に比し大きい、その中で特に寒暖差の小さい、気温の安定した頃にヘビの活動は活発になっているようである。図5に下呂町の日平均気温と降水量の関係を示す(笠原・川崎1975より転写)。

### 要 約

1. 1 用水路へ落ち込んで、その結果集水槽に滞留していた爬虫両生類を2年間にわたって採集し続け、断片的ながら下呂町における爬虫類相とその生活史を考察した。
2. 爬虫類は7種108個体、両生類7種161個体以上を採集し、当用水路周辺の種類・個体数の豊富なことを裏付けた。
3. ヒバカリとシマヘビにおいて、集水槽と槽外フィールドでの採集数の差から、前者は人間のあまり出歩かない早朝とか薄暮に活動していると考えられた。
4. 落ち込んでいたヘビ類の個体数を月別にみると、下呂町においてコンスタントに活動するのは、6～10月のようである。
5. その中で、7月と9月には多くのヘビ類が落ち込んでいた。逆に、8月にはあまり入っていないかった。
6. 特にヤマカガシの7月、9月に落ち込んでいた数は多く、そのことから下呂町においては、気温の較差の小さい時期にその活動は活発になっていると考えられた。
7. そのほか、用水路・集水槽の構造、その周辺の環境などから、ジムグリ、シロユダラの生活形について若干触れた。

### 謝 辞

2年間、本調査の協力を惜しまなかった鈴木照義、徳原新一の両氏(下呂町)、下呂町職員の方々、特に集水槽の構造、下呂周辺の気象関係について御教示して頂いた徳原新一氏に厚くお礼申しあげる。また本稿を快く校閲して頂いた柴田保彦氏(大阪市立自然史博物館)、その投稿に際しお骨折り頂いた宮崎 惇氏(本巣郡巣南町立南小学校)、文献の一部の引用を御教示して頂いた千石正一氏(野生生物研究センター)にも感謝の意を表します。

### 引用文献

- Fukada, H., (1958) Biological Studies on the Snakes IV, Seasonal Prevalence in the Fields. Bull. Kyoto Gakugei Univ. Ser. B., 13 : 22-35
- Fukada, H., (1959) Biological Studies on the Snakes V, Food Habits in the Fields. Bull. Kyoto Gakugei Univ. Ser. B., 14 : 22-28
- 岐阜県高等学校生物教育研究会(1974)編  
岐阜県の動物。大衆書房, ゴリス・リチャード(1966)日本の爬虫類。小学館, 原 幸治(1977)東京都のヘビ。どうぶつと動物園, 29(1): 10-13, 井上・川崎(1975)爬虫類・両生類。自然環境保全地域候補地学術調査報告書, 門和佐川流域: 51, 笠原・川崎(1975)気候概説。自然環境保全地域候補地学術調査報告書, 門和佐川流域: 26-27, 武藤暁生(1975)シロマダラに関する飼育観察とその分布追加記録。爬虫両生類雑記, 2(1): 137-139, 武藤暁生(1976)飛騨地方のタカチホヘビ。郷土研究・岐阜, 11: 5-7, Oliver, J.A., (1947) The Seasonal Incidence of Snakes. Am. Mus. Nov., (1863): 1-14, 千石正一(1967)松戸・船橋地方における爬虫類について。千葉県動物基礎資料, 第6集: 161-176, 千石正一・ほか(1975)房総丘陵の爬虫・両生類。房総丘陵清澄山・高宕山地域の自然とその人為による影響(第IV報): 11-19, 千石・森口(1979)蛇相の量的解析。爬虫両生類情報交換会第3回総会の講演内容, Shibata, T., (1961) Some observation on a rare Japanese Snake, *Dinodon orientale*. Sci. Rep. Yokosuka City Mus., (6): 64-66 柴田敏隆(1968)三浦半島の爬虫類相。横須賀市博物館研究報告(自然科学), 14: 95-102, 2pls., 柴田保彦(1970)隠岐より新しく記録されるシロマダラ, 並びに日本におけるシロマダラの分布とその由来についての考察(爬虫類・ヘビ類)。自然史研究, 1(5): 35-44
- 高山測候所内気象普及会(1976)飛騨地方 暮しのお天気, 第1部 気象の暦
- 内田・今泉(1939)蛇類の食性に関する調査成績。鳥獣調査報告, (9): 144-207

(完)

## 南欧をめぐる岐阜市博物館建設に思う

去る1月27日、岐阜駅前ワシントンビル4階で、恒例のセミナーが開かれました。30人近い出席者を得て、今回は、日博協主催の海外事情調査に参加された本会副会長 郷 浩先生から200枚に及ぶスライド紹介と、その見聞にもとづく、岐阜市博物館づくりへの核心に迫る含蓄のある提言がされました。以下その大要を紙上で報告します。

なぜ南欧へ出かけたのか。

人間は死ぬまで勉強しなければいけない、百聞は一見にしかず、見学し続けなくてはいけない。のほほんと生きていては、人間としての存在価値がない。織田信長が永祿7年(1564年)岐阜城を攻略し、天下統一の足場として岐阜城を建設した。同12年にポルトガルの宣教師ルイス・フロイスは京都を追放されて岐阜城の信長を訪問して保護を求めた。彼がインドゴアの総督に送った手紙の中に、“岐阜城の宮殿は、クレタ島の迷宮にひとしい”と書いてある。そのクレタ島の迷宮を、この自分の目で確かめてみたかった。それに、当時は、イタリアではルネッサンスの爛熟期であったので、一度はイタリアのフィレンツェやローマにおけるルネッサンス文化の真髄に触れてみたかった。日本城郭研究家の大畑伸博士の「桃山の春」によれば、織豊時代は日本のルネッサンスであると書いてあるし、岐阜市の姉妹都市がフィレンツェであるから、なおさらである。

出発前2ヶ月間はこの面の勉強に没頭したが、現地で見ると聞くのとは大違い、帰国後猛勉強しているがとてもおぼつかない。一口で云えば、ギリシャの彫刻、エジプトのモスク、イタリアの絵画、強烈な印象の中にある文化財の数々、そして人口40万ほどのフィレンツェに40もある博物館……この体験を通して岐阜市の博物館づくりに思うこと大である。博物館こそは



岐阜市の表玄関であり文化の顔である。岐阜市ならではの表看板として、国際化時代にふさわしく視野の広い格調高きものにしなければいけない。

展示の核を何にするか。

国際都市、観光都市としての岐阜市ならではの博物館の核としては、「信長と南蛮文化」を扱ってはいない。南蛮文化の研究第一人者松田毅一氏(南蛮史料の発見、南蛮遍路、キリシタンの研究、フロイスの日本史などの著あり)、桃山城、安土城の研究で知られた桜井成広氏、「日本食物史」その他の樋口清之氏ら、これにかかわる著名人を指導者におおぎ、確かな理念にもとづいて、恥かしくない博物館づくりをしなくてはいけない。信長と南蛮文化を中心になど、そんな雄大な構想で、ほんとうにやれるのか……との心配の声もあるが、博物館づくりこそはとりくむ人間の心である。精神である。事なかれ主義の役人仕事にまかせていいはずがない。本気でやる気があるかどうかの問題である。

以上のような話題提供を受けた後、参加者との間で活発な質疑応答がなされた。郷先生独得の猛勉強と自らの体験にもとづく郷浩郷土学にもとづいた提言の数々、全国各地で郷土博物館づくりが盛んな今日、市民参加の博物館づくりに、こうしたセミナーの果たす役割と意義が深いことを物語るセミナーでした。

(文責 編集室)

**くすり博物館  
収蔵資料写真集 彩巧社発行**

くすり博物館の収蔵資料写真集ができました。書名もずばり「くすり博物館」で、Museum of Japanese Pharmacy の英名が付されています。

前川久太郎（東京医科大学教授）氏と青木允夫館長の共著で、160ページ（うちカラー96ページ）、A4版、深緑色の美しい布装です。

目次は、薬種・薬種屋・製薬・調剤・売薬・薬祖神・看板・引札・富山配置売薬・西洋薬学・健康の認識と分かれており、それぞれ1,000字程度の歴史的考察が示されています。薬草園や各種引札、美人画ポスター、富山絵、それに百味單司や薬籠、印籠など個々の写真にも簡単な説明が付けられ、その数370種余です。

東京・彩巧社から発行され、定価は9,800円で一般書店でも手に入りますが、くすり博物館でも申込みを受け付けています。

**大垣祭の名物「朝鮮山」の資料館完成**

大垣市竹島町に伝わっていた大垣祭「朝鮮山」は、大垣祭のやまの中でも、「唐人行列」として人気のあったもの。明治期に神仏分離で廃止され、その諸資料は散逸してしまっただけで、それがやま蔵から発見され、朝鮮大王の頭、金らんの朝鮮服、のぼり、軍配、小笛など約44点が、このほど竹島会館内の資料室に展示公開された。資料室面積約46㎡。

**歯の博物館構想すすむ**

岐阜県歯科医師会では、56年秋完成予定の県口腔保健衛生センター（岐阜市加納城南通り）の2階に、全国的にも珍しい歯の博物館づくりを計画、歯のことについて何でもわかるユニークな博物館をめざすもので、小・中学生の課外授業などにも開放し、歯の衛生教育に役立て

ようというもの。特異な分野の専門博物館の登場が今から待たれます。

**郷副会長 南欧の博物館めぐりから帰国**

セミナー報告にあるように、日博協の海外事情調査団の一員として、去る11月12日から16日間、ギリシャ・エジプト・イタリアの博物館及び類似施設等を視察、元気に帰国されました。猛勉強家の郷先生らしく、膨大な諸資料を持ち帰られました。“団体旅行は個性が失われると批難もあるが、短時間に多くを見学、格安の費用で行けることを考えると、こうした見学旅行は団体ツアーでも充分価値がある。毎年行なわれているから、ぜひ本県からも、ひとりでも多くの方々が、この日博協の海外視察旅行に参加されるといい”……郷先生の伝言でした。

**小野木理事 ヒマラヤの自然観察に**

本会理事、岐阜県博物館学芸員小野木三郎氏は、これまで外国隊の入山が許可されていない中国国境沿いのバイラブクンド尾根へ、日本ヒマラヤ協会の踏査隊に加わって入山。12月30日から18日間の短期間の山行だったが、日本と結びつきの深いヒマラヤの植物、シャクナゲの本拠地等で植生を重点に観察、自然景観等の写真資料を撮影され無事帰国されました。

**亀山セミナー委員  
マヤ遺跡を訪ね 旅行中**

本会セミナーの推進役亀山久雄委員は、絵の修業を兼ねメキシコ方面を旅行中、現代美術・マヤ遺跡を訪ねて、势力的に活躍されています。春になったら帰国されるとの絵葉書が編集室にとどいています。

## 資料紹介「帰化植物」へどうぞ！

岐阜県博物館では、3月1日(土)～3月30日(日)までの1ヶ月間、資料紹介として「帰化植物」を開催します。経済成長・工業化の進展とともに、私たちの身のまわりには、外国からやってきた帰化植物が目立つようになり、植物の世界は今や有史以来の激動の中にあります。この資料紹介では、実物標本、図表、写真等を使って、帰化植物とは、文明開化の帰化植物、日本のものと比べてみよう、戦後派の帰化植物等の内容を紹介するとともに、都市部における帰化植物の実態調査の結果や身のまわりで調べてみよう……という呼びかけもあり、身のまわりの自然を見直すには絶好の催物となっている。



道端の雑草 オオバコ



外国から来たツボミオオバコ

通常の入館料だけで自由に見られ、日祭日には、帰化植物に関するスライド上映会も開催される。また団体見学者には、学芸員の解説指導による「自然教室」の開催も可能ですから、ご希望の団体は、事前に申込み及び「自然教室」の内容の打合わせを行うこと。事前打合わせは岐阜県博物館学芸部 教育普及係 まで。

TEL 05752-8-3111 (代)

## 岐阜県博物館開館五周年記念 春の特別展「宝暦治水と薩摩藩」

開館五周年を迎える岐阜県博物館では、姉妹県鹿児島県の後援を得て、春の特別展として「宝暦治水と薩摩藩」を開催予定。NHK大河ドラマ、獅子の時代も始まったばかりでタイムングもよく、また日頃見られない島津藩の遺品

及び宝暦治水にまつわる諸資料等、遠く鹿児島から出品される文化財の数々であるだけに、見逃せないものです。会期その他の詳細は後ほど発表されますので、ぜひお出かけ下さい。

## 岐阜市 博物館づくり 始動

岐阜市では、市民から幅広い意見を出してもらい市民ぐるみで博物館づくりをする目的で、博物館建設懇談会をスタートさせました。堀房夫県教育長、松尾克美県博物館長、江口三五弁護士、高橋順吉岐阜青年会議所会頭、亀山きみ市婦人会々長、館正知岐大大学長、野村忠夫岐大教授らに市議会側を含めた14人が懇談会のメンバー、建設、展示構想、資料収集にかかわる専門委員を2月中ごろまでに選び、今後は専門委員会と懇談会とが一緒になって基本計画づくりに取り組んで行くとのこと。

全国各地で博物館づくりが盛んな今日、やゝもするとお役所の秘密主義下で、開館後の博物館活動の機能が忘れられたり、博物館とは何なのかの理念形成もないまま、施設づくりに終始しがちな面が多々指摘されています。準備段階、計画段階の当初から、学芸員集団をこそ確保し、博物館学の専門家、経験の豊かな者、そういう人々の討議・討論を経なくては、ほんものの博物館づくりができないことに注目してほしいものです。

訂正

№48 P1 ① 三重博物館協会交流研究会

② 三県博物館協会交流研究会

## 編集後記

◎金子先生の玉稿、いよいよ博物館技術論の実践論として、今後民俗系諸施設の実務バイブルになるものと思います。今後ともご期待下さい。

◎本年度の最終号いかがでしたか。本誌の性格・方向づけをどこに……総会時には多数出席下さり、諸々のご指差・提言を(S.O)